

西光

第 7 号

百橋山 西光寺
高岡市京町一〇一・二五
電話(〇七六六)二二二・二九七一
FAX(〇七六六)二二一・三三七〇
平成五年十一月二十七日

《五十年忌》

昨年(昭和十七・十八年・十九年)といえはあの太平洋戦争の時の多くの犠牲者が思い浮かぶ。戦死者ばかりではなく、十分な食料や医療のため満足なこともしてあげられず亡くなった方も多い。多くの若者が、早くに父親や母親、または兄弟達を亡くしている。後に残された家族の無念の思いと、今日まで苦勞を重ねてきてようやくここに至ったという思いとが、交錯しているにちがいない。早く肉親と分かれた人は、早くこの世の無常を感じ、そしてまた肉親への思いが強い。父親がいなかったため、おばあさんと二人で、弟の手をひいて田圃を耕したという記憶がよみがえり、法要の読経では万感胸に迫り、目頭が熱くなる。そして立派に五十年忌を勤め上げ、大役を果たしたという満足感が、思わず涙となって流れる。こちらでもらい哭きしそうになることが多い。あのととき十代であった少年も、今では六十代半ばをすぎた立派なお父さんである。そして孫も既に何人かいる。

しかしそれから早くも半世紀が経ち、日本は経済大国として、また先にはバブル経済という、わけの分からない「繁栄」の時を迎えていた。五十年前には考えられない時代である。しかし一方今年(平成五年)は百年に一度かの歴史的な大凶作と報じられている。さらにこのところの不景気は次第に雇用調整や消費の落込みに影響が出始めている。といっても餓死者がでたということも、栄養失調で亡くなったということも、まして戦死者も聞かない。今なお日本には物は豊富にあり、充分すぎるほどの豊かな環境にあつて何一つ不自由のない長寿社会を謳歌している。五十年忌の法要が執り行えたのも、また今の日本の繁栄のたまものかもしれない。

といって廻り中に物がいくらか一杯あつても、仮に経済が豊かであったとしても、命は買えないし、また過去は戻らない。小さいときに残して行かれた親の業縁をようやく帰し終えたという、あるいは先祖のご縁を無事継承して今日にあるという、この五十年間の心の支えも、またけつして物に替えられない「わたし」のものなのである。ここに五十年忌において、家族や親戚らが一致協力して、この「わたし」の五十年間の努力と忍耐と信心に与えてくれた賞賛と思ひやりこそが、なにもかえがたい喜びであり、またそんな「わたし」はなんと果報者であらうかと目覚めるのである。如来は大悲の心をもつて、倦み疲れることなく、常にわが身を照らしたもうておられるという、正信偈の「大悲無倦常照我」の一句が思い浮かぶ。

《標語》

「これは仏智の不思議にてあるなり」(親鸞八十八歳御筆法語)

《いとこ煮》

報恩講や御正忌(御満座)のお斎には、小豆を使った料理を出す習慣がある。それは、親鸞聖人が小豆が大好きだったことにちなんでの事らしい。各末寺によって、それは小豆がゆであつたり、ぜんざいやおはぎだったりする。西光寺では、今年の報恩講のおつゆを「いとこ煮」にしてみた。「いとこ煮」といえば、かぼちゃと小豆の煮たものを云うところもあるが、これは具がたくさん入った味噌汁である。名前の由来は、大根・人参・里芋など畑のいとこ・はとこの野菜に小豆を入れて煮るからとか、又コトコト煮ることから「いとこ煮」と名付けられたともいわれる。ところでここに、もう一つの説がある。親鸞聖人が九十才の長寿であつたことにあやかり、聖人の遺徳をしのび、お好きであつた小豆をいただくことから「遺徳煮」がなまって「いとこ煮」になったのではないかという説である。真宗門徒としては、この説に軍配を上げたいと思うのだから、いかがであらうか？

五年前から、お斎のあと、お日中のはじまるまでに、参拝席に、赤い毛織を敷き、簡単なお抹茶の席を設けている。はじめは遠慮していた方もあつたが、今ではほとんどの人に楽しんでいただいている。あなたも気軽に、どうぞ、一服。

《真宗ひとこと知識》

無量寿(むりょうじゅ) はかり知ることのできない命、無限の生命をもつ仏という意味で阿彌陀仏のこと。四十八願の第十三願に寿命無量が誓われており、阿彌陀仏を無量寿仏・無量寿如来ともいう。善導の『観經四帖疏』玄義分には「無量寿というは、すなわちこれこれの地(中国)の漢音なり。南無阿彌陀仏というは、またこれ西国(インド)の正音なり」とあり、無量寿は阿彌陀仏をいうサンスクリット「アミターユス」の漢音訳であることを示している。

《行事予定》

一月一日・二日・三日	修正会・金剛参り	
一月八日	法話会(初お講)	〔講師〕 釜田恒明師
三月八日	法話会	〔講師〕 教願寺 釜田恒明師
毎月八日	法話会	〔講師〕 教願寺 釜田恒明師
八月七日・八日	永代祠堂経会	〔講師〕 光専寺 葉室文昭師
八月十四日・十五日	お盆	
十月八日	報恩講	〔講師〕 光専寺 葉室文昭師
九月	〃	〔講師〕 願浄寺 嶼 秀誠師
十一月八日	法話会	〔講師〕 願浄寺 葉室文昭師
十一月二十七日	御正忌	〔講師〕 光専寺 葉室文昭師
十二月三十一日	除夜勤行(除夜の鐘)	〔講師〕 願浄寺 嶼 秀誠師

